

■農林水産省登録：第23706号  
 ■有効成分：ジノテフラン…1.67%  
 シメコナゾール…1.5%  
 トルプロカルブ…3.0%  
 ■性状：類白色細粒  
 ■人畜毒性(製剤)：普通物\*

\*「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に  
 基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受  
 けない物質を示す。

■適用病害虫と使用方法

2016年8月末日現在

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	シメコナゾールを含む農薬の総使用回数	トルプロカルブを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ いもち病 紋枯病 稲こうじ病	3kg/10a	出穂5~30日前 但し、 収穫45日前まで	1回	湛水散布	4回以内 (育苗箱への処理及び 側条施用は合計1回 以内、本田での散布、 空中散布、無人ヘリ 散布は合計3回以内)	2回以内	2回以内 (移植前は1回以内、 本田では1回以内)

△使用上の注意事項

- 散布に当っては、湛水状態(水深3cm程度)で重複をさけ均一に散布し、散布後少なくとも4~5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水及びかけ流しをしないください。なお漏水の激しい水田では使用をさけてください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。  
 ①ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないでください。  
 ②関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意してください。とくに本剤をはじめて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

△安全使用上の注意事項

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

この冊子中にある「盾のマーク」をARアプリ(無料)でスキャンすると、動画やトルプロカルブの詳しい情報を閲覧できます。

■ARアプリ「COCOAR(無料)」の使用方法  
 iPhone / iPadは「Apple Store」から、Android端末は「Google Play」から、「COCOAR」で検索してインストール。アプリを起動し、トルプロカルブの盾のマークをスキャン画面で読み取ると、特設サイトにジャンプします。  
 ※Wi-FiまたはLTE環境を推奨します。

本製品は農業用殺虫殺菌剤であり、製品ラベルの記載内容以外には使用しないでください。本印刷物は2016年8月末日現在の資料、情報、データ等に基づいて作成していますが、記載データ及び評価はあくまでも測定値の代表例であり、全ての事例に当てはまるものではありません。

- 使用前には、ラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
- 空袋などは圃場などに放置せず、適切に処理してください。
- 防除日誌を記帳しましょう。

さらば、いもち病!



トルプロカルブ配合 新・水稲用 殺虫殺菌剤

**ガッツスター**<sup>®</sup>  
 ジノテフラン・シメコナゾール・トルプロカルブ粒剤 **粒剤**

# [トルプロカルブ] 配合剤で、 いもちの悩みスッキリ解消!

いもち病・紋枯病・稻こうじ病も、  
ウンカ類・ツマグロヨコバイ・カメムシ類も。  
これ一剤でガッチリ守る!

## ■ ガッツスター粒剤の特長

新システムの効き目で、  
**いもち病菌を  
強力ブロック!**



葉いもちから穂いもち、  
**紋枯病や稻こうじ病  
までカバー!**

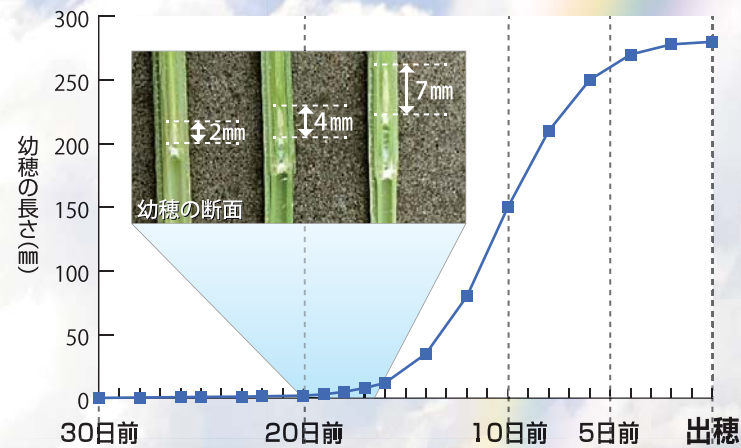


**カメムシ類、ウンカ類や  
ツマグロヨコバイも、  
長期間抑える!**

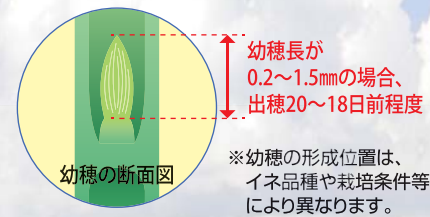
## ■ ガッツスター粒剤の上手な使い方

※病害虫の発生状況により、登録の範囲内で処理時期を変更してください。

### ・幼穂長をもとにした出穂日の判断基準 (イネ品種:みつひかりの場合)



イネの出穂前日数は、幼穂の伸長程度を測ることで、おおむね把握することができます。ただし、指標となるのは幼穂長が緩やかに伸長する伸長過程の前半(出穂15日前頃)までで、それ以降は急激に伸長するため、止葉の伸長程度で判断してください。



### 登録上の処理時期

ただし収穫45日前まで

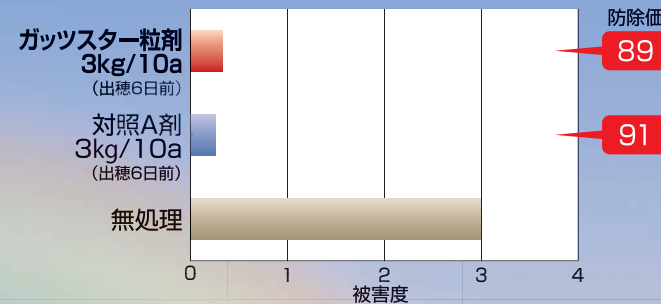
病害虫ごとの最適処理時期	処理時期
斑点米カメムシ	出穂10~5日前
穂いもち	出穂14~10日前*
紋枯病	出穂4~2週間前*
稻こうじ病	出穂3~2週間前

② いもち病(穂いもち)、紋枯病、稻こうじ病、ウンカ類を防除対象とする場合  
処理適期: 出穂3~2週間前(カメムシ類は追加防除が必要)

① いもち病(穂いもち)、カメムシ類を防除対象とする場合  
処理適期: 出穂10~5日前(ただし収穫45日前まで)

## ■ 穂いもちに対する効果

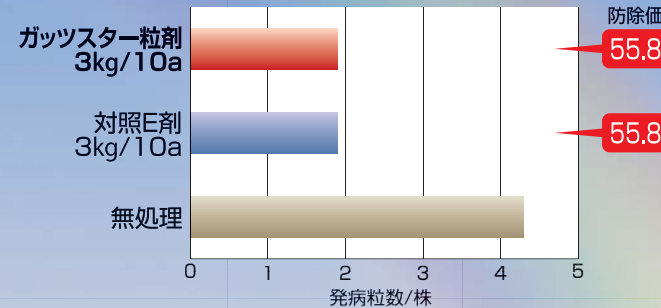
2014年 三井化学アグロ(株) 農業化学研究所



試験地:茨城県稲敷市上之島(研究所内露地圃場) イネ品種:キヌヒカリ(4/24播種、5/16移植、8/5出穂) 試験設計:1区14.04㎡、3反復 薬剤処理:7/30、区内に均一に散布 穂いもち調査法:8/30、各区15株の全穂について発病程度を調査し、被害度と防除値を算出 被害度=A+(B×0.66)+(C×0.26) A:発病穂首率、B:1/3以上枝梗発病穂率、C:1/3以下枝梗発病穂率

## ■ 稻こうじ病に対する効果

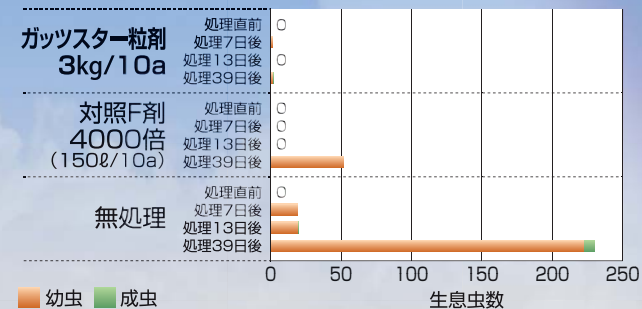
2014年 新潟県農業総合研究所 作物研究センター



試験地:新潟県上越市三和区越柳 発生状況:多発生 イネ品種:みつひかり2003(5/5移植、8/15出穂) 試験設計:1区24㎡ 3反復、無処理1区312㎡ 反復なし 薬剤処理:7/30(出穂16日前)に手で湛水散布 調査月日:方法:10/10に各区50株について株ごとに発病粒数を調査。葉書の有無は、8/11(出穂4日前、散布12日後)に肉眼観察で行った。防除値は株あたり発病粒数の平均値より算出

## ■ トビイロウンカに対する効果

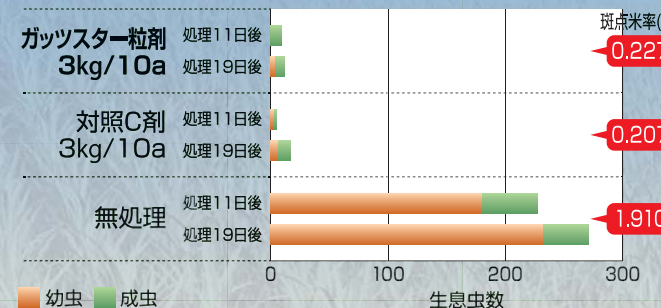
2014年 山口県農林総合技術センター



試験地:山口県山口市大内御堀 農林総合技術センター内圃場 発生状況:少発生 イネ品種:ヒノヒカリ(5/27播種、6/20移植) 試験設計:1区36㎡、2区2連制 薬剤処理:7/25(移植35日後)、所定濃度・所定量を散布 調査月日:方法:7/25(処理前)、8/1(処理7日後)、8/7(処理13日後)、9/2(処理39日後)に、各12株について成虫・幼虫別に見取り調査。葉書調査は生息虫調査時に症状・程度を肉眼観察により行った。主要飛来波は、7/3(少飛来)、13(並飛来)と推定

## ■ カメムシ類に対する効果

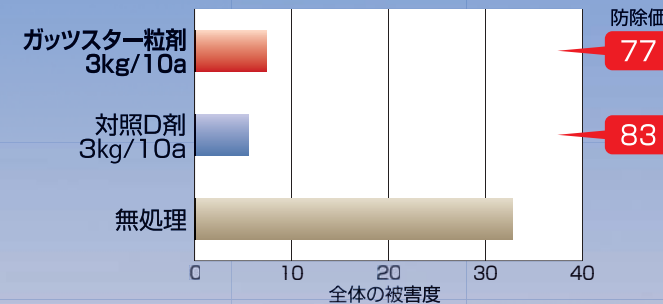
2015年 油日アグリサーチ(株)



試験地:滋賀県甲賀市甲賀町 発生状況:ホソハリカメムシ/少発生、クモハリカメムシ/多発生、アカスジカスミカメ/中発生、トゲシラホシカメムシ/少発生 イネ品種:キヌヒカリ(4/22播種、5/18移植、8/5出穂) 試験設計:1区192㎡、連制なし 薬剤処理:7/31(出穂約5日前)、所定量を手撒きで均一に湛水散布 調査月日:方法:8/11(処理11日後)、8/19(処理19日後)に捕虫網(径36cm)によるすくい取り(1区3ヵ所、1ヵ所20回振り)調査を行い、種別に成虫数を調査。9/16(収穫期)に1区3ヵ所、1ヵ所20株を刈り取り、9/25(乾燥調整後)に精玄米10,000粒中の斑点米数を調査

## ■ 紋枯病に対する効果

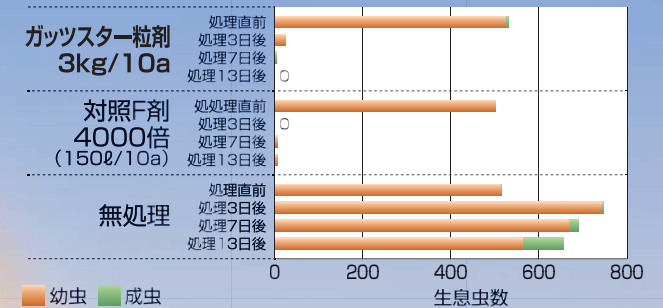
2014年 (一社)宮城県植物防疫協会



試験地:宮城県黒川郡大衡村駒場 発生状況:中発生(接種) イネ品種:ひとめぼれ(5/20播種、4/16移植) 試験設計:1区24㎡、2反復 薬剤処理:7/23(穂ばらみ期、出穂前14日、接種2日後)、試験区枠の水口を止水し所定量を手散布、5日後に水口から通水 調査月日:方法:9/5(登熟期、処理44日後)に各区48株(欠株等在り)×4反復について発病率、病斑高率を計測。羽葉法により全体の被害度と防除値を算出。病斑高率=最上位病斑高(cm)/発病株の草丈(cm)×100、発病株の被害度=1.62×病斑高率-32.4、全体の被害度=(発病株の被害度×発病株率)/100

## ■ セジロウンカに対する効果

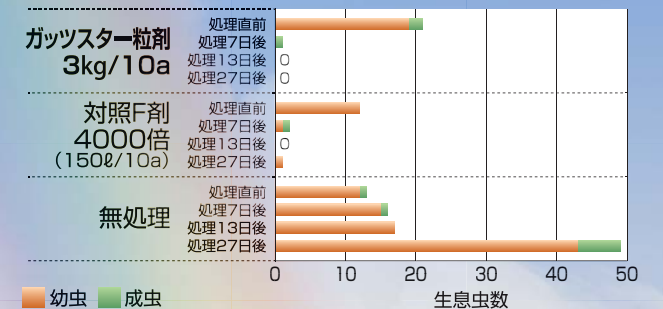
2014年 山口県農林総合技術センター



試験地:山口県山口市大内御堀 農林総合技術センター内圃場 発生状況:中発生 イネ品種:ヒノヒカリ(5/27播種、6/20移植) 試験設計:1区36㎡、2区2連制 薬剤処理:7/25(移植35日後)、所定濃度・所定量を散布 調査月日:方法:7/25(処理前)、7/28(処理3日後)、8/1(処理7日後)、8/7(処理13日後)に、各12株について成虫・幼虫別に見取り調査。葉書調査は生息虫調査時に症状・程度を肉眼観察により行った。主要飛来波は、7/3(少飛来)、13(並飛来)と推定

## ■ ツマグロヨコバイに対する効果

2014年 山口県農林総合技術センター



試験地:山口県山口市大内御堀 農林総合技術センター内圃場 発生状況:少発生 イネ品種:ヒノヒカリ(5/27播種、6/20移植) 試験設計:1区36㎡、2区2連制 薬剤処理:7/25(移植35日後)、所定濃度・所定量を散布 調査月日:方法:7/25(処理前)、8/1(処理7日後)、8/7(処理13日後)、8/21(処理27日後)に、各12株について成虫・幼虫別に見取り調査。葉書調査は生息虫調査時に症状・程度を肉眼観察により行った



### トルプロカルブ配合マーク

いもち病から、大切な稲を守る黄金の“盾”。雨のち晴れの明日を予感させる“虹”。そしてトルプロカルブの“T”。新たないもち病予防の始まりを告げる、信頼のシンボルです。